



動があります。また分かりやすく展示した自然についてのディスプレイからは、文字や写真だけでは伝わらない、プラスの情報が必要であるのです。宇都宮市の美術館、博物館は、いずれも交通アクセスが良い場所にあり、周囲を公園に囲まれていますから、リラクゼーション効果も大きいでしょう。

日頃仕事に忙しく追われていると、芸術や学術など実益に遠いように思われる方面は、ついついおろそかにしがちです。でも、たまにそういったジャンルのもに触れることで、頭がリフレッシュされ、新しい発想や意欲が生まれることもあります。「本物とのふれあい」を、ぜひ日常に取り入れて、人生の楽しみを広げてください。

それぞれに大きな魅力 4つのミュージアム

美 美術館や博物館のことを、英語で「museum」（ミュージアム）と言います。有名なフランスのルーブル美術館も、アメリカのスミソニアン博物館も、どちらも英語では「ミュージアム」。美術や学術資料、歴史的に価値あるものなどを収集、保存、公開する場所を「ミュージアム」と考えていいでしょう。

宇都宮市内の公立ミュージアムは4カ所。栃木県立美術館、宇都宮美術館、栃木県立博物館、うつのみや妖精ミュージアムです。全国の自治体の中でも早い時期に開館した栃木県立美術館では、近代以降の栃木県ゆかりの作家作品を中心に、幅広いジャンルで収集展示。宇都宮美術館は20世紀以降の現代美術やデザインにテーマを絞って収集展示しています。

栃木県立博物館では、栃木県の自然や文化について、自然や人文などのテーマに沿って分かりやすく展示。うつのみや妖精ミュージアム（市民ギャラリー併設）は、宇都宮市出身の英文学者である井村君江氏から寄贈された、19世紀英文学の資料を中心に、妖精をテーマとした書籍や彫刻、絵画などを展示しています。

4施設とも、ただ単に収集展示しているだけではなく、あるテーマに基づく「企画展」や「テーマ展」「コレクション展」を開催。またワークショップや市民講座、時にはコンサートを開催するなど、さまざまな方法で、市民に向けて文化情報を発信しています。ふだん美術や



特集1 【市内ミュージアムめぐり】

芸術の秋。

たまにはミュージアムで リフレッシュしてみませんか？

宇都宮市内の公立美術館・博物館紹介

今回の特集は、宇都宮市内にある公立の美術館や博物館をご紹介します。日々忙しく仕事に追われる会員の皆さん、たまには日常を離れて、芸術や歴史、科学などに触れてみませんか？ 仕事に行き詰まりを感じている人も、もしかしたら気持ちを切り替えることで、新しいアイデアがひらめくかも知れませんよ。

歴史、文化に触れて来なかった人でも、そうしたイベントやセミナーに参加することで、さまざまなプラス効果が期待できるでしょう。「アートは何だか難しくて」「歴史や自然のお勉強」は苦手で、などと最初から敬遠するのではなく、まずは訪れて、見て回って、ちよとでも興味がわけば参加してみたいかがでしょうか。きつと楽しく学べること、請け合いです。

本物とのふれあい
で、
リフレッシュを

Re Time

美術館や博物館を訪れて得られる最大の体験は「本物とのふれあい」ではないでしょうか。インターネットが発達した現代においては、さまざまな情報を机の前に座ったまま、瞬時に得ることができます。芸術作品も、世界中の名作を次から次へと画像で楽しむことができます。

また、例えば「栃木」「自然」「特徴」といったキーワードを検索サイトで調べれば、さまざまな情報を得ることが出来ます。

けれども、例えば芸術作品ならば、やはり本物をじかに見ることでしか得られない感

栃

本県立美術館が開館したのは、昭和47（1972）年11月2日です。県内初の公立美術館として、県民の期待を背負ったスタートでした。当時はまだ地方自治体が、美術品を収蔵して展示するスタイルの美術館を運営するのは珍しく、全国的にも先駆的な存在でした。館内は、階段の高低や部屋の配置などを工夫し、美術鑑賞をしながら巡り歩く楽しさも感じられる空間演出になっています。

1階には企画展を行う「企画展示室」と、収蔵品を展示する「常設展示室」があります。また古代ローマの劇場をイメージさせる「屋外展示場」では、インスタレーションや現代舞踏などが行われることもあります。2階も常設展示室があります。地下にはミュージアムショップとレストランがあり、また屋外展示場を眺めることもできます。

収蔵している美術品は、栃木県出身やゆかりの作家のものを中心。特に近代、現代の日本画・洋画・工芸などが多く展

示されています。企画展は洋画や日本画、工芸などそれぞれのジャンルや、テーマなどを、バランスよく行っています。

その一方で、ターナーやコンスタブルといったイギリスの風景画家、モネやゴッロなどフランスの印象派画家など西洋絵画の名作も常設展示しており、多くの愛好家の目を惹きつけています。

また持宝院（多気山不動尊）から寄付・寄託された113点の「伊東直子マイセン磁器コレクション」は、マイセン磁器のコレクションとしては日本有数のものです。

宇都宮市内の中心部に位置しており、桜通り十文字の近い交通の便の良い場所にある、栃木県立美術館。企画展を行っていない時でも、常設展示は見る事ができます。日々の仕事から頭を切り替えたい、リフレッシュしたい時など、ぶらりと訪れてみるのもいいかも知れません。

01.

TOCHIGI PREFECTURAL
MUSEUM OF FINE ARTS

栃木県立美術館

TOCHIGI PREFECTURAL
MUSEUM OF FINE ARTS

立体的な空間演出を楽しみながら、
栃木県のゆかりの作家や
世界の芸術作品にふれる楽しみ。



栃木県立美術館
宇都宮市桜4-2-7
TEL 028-621-3566
http://www.art.pref.tochigi.lg.jp
開館/昭和47(1972)年
観覧時間/午前9時30分～午後5時
(入館は4時30分まで)
休館日/月曜日、祝日の翌日ほか
(詳細はお問い合わせください)

1: 展示室(撮影: 椎木静寧) / 2: 企画展「タムラサトル《真夏の遊園地》」チラシ / 3: ミュージアムショップ / 外観(撮影: 村井修)

03. TOCHIGI PREFECTURAL MUSEUM 栃木県立博物館

自然と文化を分かりやすく展示。
緑豊かな中央公園の奥に建つ博物館。



写真6: 子どもから大人まで人気の体験講座「化石発掘隊」/ 7: 地域に出かけての移動講座も人気(写真は宇都宮市生涯学習課主催講座)
8: 全国でも珍しいスロープ式展示




栃木県立博物館
宇都宮市睦町2-2
TEL 028-634-1311
<http://www.muse.pref.tochigi.lg.jp>
開館/昭和57(1982)年
観覧時間/午前9時30分~午後5時
(入館は4時30分まで)
休館日/月曜日、祝日の翌日ほか
(詳細はお問い合わせください)

「水と緑と文化」をテーマにした中央公園は、昭和57(1982)年のオープン以来、市民の憩いの場として愛されています。その奥に静かにたたずむ栃木県立博物館は、公園と同じ年の開館、栃木県の自然や歴史、文化について、県民の理解を深めてもらうことを目的に作られました。館内に入ると正面に見えるのが「スロープ展示」。72メートルもの螺旋状のスロープに沿って、日光地方の動植物の生態を垂直分布に従って展示しています。展示室1では栃木県の歴史を年代別に整理して展示し、展示室2では常設展やテーマ展、企画展などを開催しています。展示内容は化石や鉱物、植物、動物など自然関連のもの、栃木県の歴史や栃木県の人々がこれまでどんな暮らしをしてきたかといった人文系のものに大別されています。この2つの大きなジャンルにそって整理し展示を行っていますから「栃木県でどんなところ?」という疑問が浮かんだ時には、まずは博物館に出かけてみるというでしょう。

他に観察会や研修、講座など、さまざまなイベントを開催しており、そのほとんどが誰でも気軽に参加できます。地域の企業とのコラボレーションも行っており、今後はさらに地域との関わりを増やす予定とのこと。企業の地域貢献活動の受け皿としても期待できそうです。



02. UTSUNOMIYA MUSEUM OF ART 宇都宮美術館

広大な森の中で、
現代アートやデザインを鑑賞。
自然と共生しながら、
新しいアートの流れを楽しんで。



宇都宮市の市制100周年を記念して、平成9(1997)年に開館した宇都宮美術館。市北部に広がる、26ヘクタールも広大な森の中に位置しています。「うつのみや文化の森」には彫刻作品が点在する広い広場があり、毎日のように散歩する人の姿を見ることが出来ます。芝生の中に寝転んで、四季おりおりの自然の風貌を楽しんでいると、時の流れを忘れてしまいそうになります。

駐車場から広場を抜けて、石段を上ると、美術館の建物が見えます。中に入れば、広くて温かみのあるエントランスが迎えてくれます。

フラットに広がる展示室は、ゆったりと作品鑑賞に集中できるよう、細部まで気を配った設計になっています。もちろんバリアフリーにも留意しており、身障者だけでなく子どもやお年寄りも安心して鑑賞できる施設です。内外装には大谷石を多くあしらっていることも、魅力の一つでしょう。美術館では、今後は大谷石に関する企画展なども実現したいと

意気込んでいます。

20世紀の美術とデザインにテーマを絞った宇都宮美術館。現代の美術やデザインの方向を決めたとも言えるシュルレアリスムやパウハウスなどに力を入れています。と同時に、宇都宮市ゆかりの現代アート作家の紹介にも熱心で、若い作家の魅力的な作品を常設展示で鑑賞することができます。

美術館では「地域と美術」「生活と美術」「環境と美術」の3つを基本テーマとして作品収集を行っています。作品は、それぞれテーマを設定して、年3回程度の展示替えを行う「コレクション展」で鑑賞することができます。1度見ておしまいではなく、定期的に訪れてみてください。新しい発見に出会えるかも知れません。

館内だけでなく周囲の森も含めてひとつの芸術空間であり、日常から少し離れてリフレッシュできる場でもある、宇都宮美術館。ぜひ足を運んでみてください。

写真1: 展示室 / 2: ミュージアムショップ / 3: レストラン
4: 佐伯祐三《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年 油彩/キャンバス 大阪新美術館建設準備室蔵



04. UTSUNOMIYA FAIRY MUSEUM うつのみや妖精ミュージアム

ビルの5階にある「妖精の隠れ家」
のようなミュージアム。



宇都宮出身の英文学者・井村君江氏から寄贈された、妖精についての絵画や書籍、彫刻などを中心に、誰でも楽しめる展示を行っているうつのみや妖精ミュージアム。イギリスやアイルランドなどの妖精に関連した資料が揃っており、一部は閲覧することもできます。館内は西欧の客間のような、かわいらしい雰囲気。あちこちに「妖精が飛び出す」ような仕掛けがありますので、試してみてください。かわいい妖精に油断していると、いたずらされるかも?!

併設している市民ギャラリーは市民に貸し出すとともに、企画展を開催することもあります。また井村氏によるギャラリートークや、市民演奏家によるミュージアムコンサートなどのイベントも随時行っています。

写真9: 名誉館長の井村君江氏によるギャラリートーク / 10: うつのみや妖精ミュージアム

うつのみや妖精ミュージアム
宇都宮市馬場通り4-1-1
うつのみや表参道スクエア内市民プラザ5F
TEL 028-616-1573
<http://www2.ucatv.ne.jp/~ufairy-m/>
開館/平成19(2007)年
観覧時間/午前10時~午後8時
休館日/年末年始
(詳細はお問い合わせください)



宇都宮美術館
宇都宮市長岡町1077
TEL 028-643-0100
<http://u-moa.jp>
開館/平成9(1997)年
観覧時間/午前9時30分~午後5時
(入館は4時30分まで)
休館日/月曜日、祝日の翌日ほか
(詳細はお問い合わせください)

